

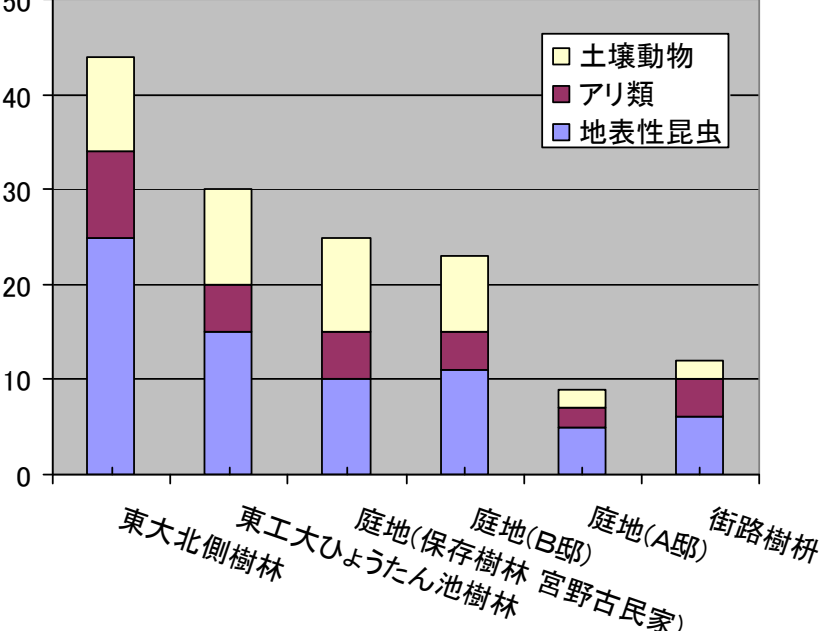
平成 24 年度の各種調査結果

地表性昆虫調査(補足調査)の結果 (2012 年 9 月実施)

表 調査地別確認種類数集計表 単位:種類

調査地点	確認した主な種類	地表性昆虫	アリ類	土壤動物	合計
東大北側樹林	アオオサムシ、センチコガネ、ウロコアリ等	25	9	10	44
東工大ひょうたん池樹林	ツチカメムシ、センチコガネ等	15	5	10	30
庭地(保存樹林 宮野古民家)	ビロウドコガネ、マルキマダラケシキスイ	10	5	10	25
庭地(B邸)	クロマルエンマコガネ、アカマダラケシキスイ等	11	4	8	23
街路樹	サビキコリ、ヒゲブトハムシダマシ等	6	4	2	12
庭地(A邸)	ヒメアカセスジハネカクシ、ビロウドコガネ等	5	2	2	9

図 調査地別確認種類数 (縦軸は確認種類数を示す)



・「庭地」のほか、幹線道路の街路樹下の環境の悪い場所でも複数の昆虫が生息していることが示された。
 ・大規模な緑地では、地表徘徊性のアオオサムシの確認など良好な樹林地環境、適湿、安定した土壤環境が残存していることが示されている。

ベイトトラップ設置状況



区立小学校児童「好きないきもの」調査

1 調査概要

区立小学校全校に対して、児童が好きないきものを選びを行った結果、以下のとおりとなった。本事業は、目黒区生物多様性地域戦略の策定基礎資料とするため、自然環境の回復目標指標等の解析を行う。

2 実施概要

- (1) 実施期間 : 平成 24 年 7 月 25 日～10 月 31 日
- (2) 実施の周知 : 区立理科部門研 区立小学校長会
- (3) 投票方法 : 各自 4 種類(動物 2 種、植物等 2 種)を選び、その理由と、いきものたちへのメッセージを記入してもらう。授業等で対応。パンフレット、アンケート用紙(下図)を利用した。



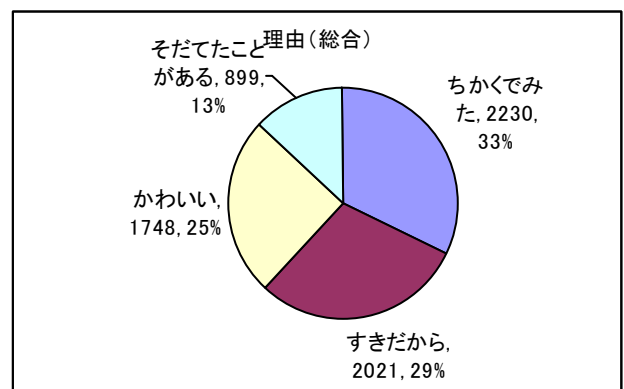
3 結果概要

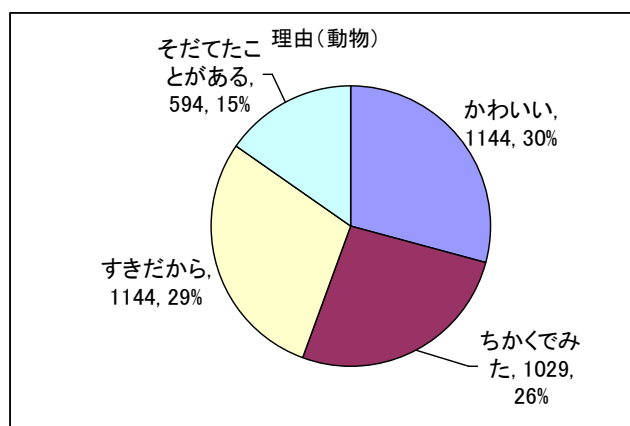
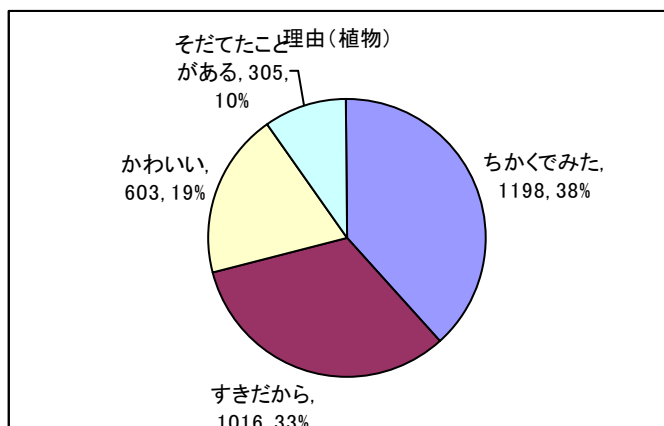
- (1) 参加校 : 区立小学校 22 校
- (2) 参加児童 : 各校 1～5 クラス: 1～6 年
計 1,464 名
- (3) 種類得票数 : 動物 2,880 票(224 種類)
植物等 2,661 票(156 種類)
合計 5,541 票(380 種類)



(4) 得票数ベスト 8 と理由

順位	分類	種名	投票児童数
1	動物	カブトムシ	235
2	植物	サクラ(ソメイヨシノ)	228
3	動物	スズメ	145
4	植物	草	140
5	動物	トカゲ(ニホントカゲ)	129
6	植物	イロハモミジ(カエデ)	124
7	植物	ウメ	120
7	動物	ツバメ	120





4 いきものたちへのメッセージ(選)

《同じいきもの》

- ぼくたちはにんげん。きみたちはむし、とり、くさ、はな、き、さかな、きのこなど。ぜんぜんちがうけど、おなじいきもの（油面小学校 1年生）
- 私たち人げんも、同じ生き物だから、場所と場所をわけあって、いっしょに生きていきましょう。これからも、たのしく平和にそして、仲よく生きていきましょう（下目黒小学校 3年生）
- みんなとってもかわいくてえらぶのが大変でした。いっしょうけんめい生きてください。（みんなの）MY（行動）宣言（環境省）の「まもろう」をとくに注意したいです（東山小学校 4年生）
- ぼくたちと同じ命をもついきものたちを大切にしていきたいです（原町小学校 4年生）

《未来に》

- 目ぐるのいきものたちへ わたしはチョウチョやテントウムシみたいなかわいい虫が大好きです。カブトムシみたいな虫はこわくてさわれません。でも5、6年生になったら、さわれるようがんばってみたいです。さいごに、100年たっても、200年たっても目ぐるから、いなくなるから、いらないでください（八雲小学校 2年生）
- いきものたちへ 今、わたしたち3年生は、「未来の森を作ろう」という学習をしていて、できるだけ緑をふやすように、がんばっています。できるだけ多くのいきものがしあわせにそして、住みやすいかんきょうで、すごせるようにしたいです。未来にものこしていきたい動物を、できるだけ大切に、とてもすてきな未来の森にしたいです（五本木小学校 3年生）
- わたしは、これからも自然を大切に、生きものたちの住めるかんきょうを作りたいです！！（田道小学校 4年生）
- 地きゅうは、人間がはいきガスを出したり林や森をけして、みどりをなくしています。だけど、ちきゅうのかんきょうをよくするかつどうも出ていますのでもうすこしだけまっけてください（烏森小学校 3年生）
- これからはぜんをよごさないようにする。地球温だん化をぼうして生きものが住めるかんきょうをたもっていきたいです（東山小学校 4年生）

《感謝》

●地球を彩り、とても美しい風景を作ってくれてありがとうございます。見ているだけで心がなごみます。さまざまな種類のいきものがありますが、全てにかんしゃします（駒場小学校4年生）

●虫や花や鳥たちへ。花や木は、いつもしぜんかんきょうやいいかおりをありがとうございます。鳥たちは、かわいすがたを、とびかたをありがとうございます。虫たちもしぜんをありがとうございます（宮前小学校3年生）

●こんなに身ぢかに（目黒区）いろいろないきものがあるとはしりませんでした。山に行ったとき空気がおいしいのは、あなたたちのおかげなのかみしれませんね。これからも身の回りの空気をおいしくして下さい。よろしくお願いします。感しゃしています（駒場小学校4年生）

●いつも、いろんなどころでさいている草花たちを、ふんでいるかもしれせん。ごめんなさい。でも、こうしていろんなどころに、それぞれきれいにのびのびとさいていて、心がいやされます。感謝してます。ありがとう。草花たち。（上目黒小学校4年生）

●いつも豊かな森を作ってくれてありがとう。これから、もっとも一っとしぜんを大切にしたいと、深くおもったよ。だから、これからも、元気に育ってね。しぜんと私たちは友だちだよ（五本木小学校3年生）

●りんしの森のサクラさん。春になるときれいな花をさかせてくれて、ありがとうございます。毎年あなたの木の下でおはなみをしています。来年もきれいにさいてください（不動小学校3年生）

《気づき》

●ビオトープの感想。春オタマジャクシやオオイヌノフグリ、カラスノエンドウ、イヌノフグリなどがありました。夏はギンヤンマ、ナツアカネ、イネ、ヒマワリなどがありました。春から夏になるにつれて生き物も変わっていくことに気づきました（鷹番小学校4年生）

●いきものたち。ぼくたちが人間が自然をこわしてしまい、生活が苦しくなっているんだよね。ごめんなさい。ぼくも身近なところから自然を守るよ。リサイクルやリユース、リデュースをしたり、資源ごみなどの分別もがんばるよ。だから、いきものたちもがんばって生きてね。おうえんしてるよ（八雲小学校6年生）

●生物多様性を守るために生物多様性にふれるのと、生物多様性をまもろうと思いました。あと生物多様性をつたえようと思いました（東山小学校4年生）

●花や草、木は大きくなって、りっぱになってほしい。太陽にたくさんあたり、水をもらい、自然をふやしてほしい。また、いい香りがでるから、たくさん香りをだしてほしい。大きく育つようにがんばれ！！鳥や魚や虫などは、おたがいえさになったりもするが、子どもをふやして自分なりに幸せな生活を送ってください（月光原小学校6年生）

《いきものたちへ》

●ソメイヨシノさんへ 八雲のシンボルツリーですね。ずっと八雲にいてください。夏になったら、せみもうれしそうにとまっているよ（八雲小学校2年生）

●やっぱり、目黒区の虫や草木はかわいいですね。オオミズアオは羽を広げると10センチにもなるなんてすごいですね。うめは、はやくさきはじめてしかもきれいですね。宮前小にはシジュウカラがよくきます（宮前小学校 3年生）

●生きるために工夫をされていてとてもすごい。ロゼットなどで冬ごしするのがとってもすごい。生きる知えをはたらかせているのがとてもすごい。（駒場小学校4年生）

●ぼくがコオロギさんをえらんだのは、育てた時に夜に、コオロギさんの歌がとてもきれいだったからです。今どは友だちといっしょに、大がっしょうをきかせてください（五本木小学校3年生）

●カブトムシは強いよね。つのがかっこいいね。これからもがんばってね。ツバメは、はねがかっこいいよね。とびつづけるスピードはすごいね（碑小学校3年生）

《みどりをふやして》

●最近、大都会では緑が少なくなり、あまり生き物を見なくなりました。大都会の空気はよごれていて、たぶん動物たちがすめないかんきょうになってしまったと思います。だから、どんな生き物とふれあえるように、空気をきれいにするなど、動物たちに良い所にしていきたいです（大岡山小学校4年生）

●今は緑がすくなくなってきたけど、わたしはトリや木の仲間は大好きです。こん虫はあまり好きではないけれど、カブトムシやクワガタなら好きです。そんなカブトムシやクワガタがふえるように緑をふやしていきたいですね（大岡山小学校4年生）

●目黒川のサクラさんへ これからも、目黒川のことをきれいにして、人々たちを「すごい！」「キレイ！」など、よろこばせてください。毎年おつかれさまです。わたしは、サクラさんを見ると、元気が出てきて、勇気と元気をもらっています。なので、目黒にすむ人たちは、みんなサクラさんのことが大好きです（田道小学校4年生）

《人間の都合で》

●もともと日本に住んでいる生き物たちが人間の自分勝手なことで外来種を放ったために、いまいる日本の生き物たちが、げきげんしたことは本当にごめんなさい。なので私たちもそんなことがこれ以上ないように努力します（東山小学校4年生）

●今私たちは、ガス、電気、などを使って、らくに生活しています。でもそれは生き物たちにもずいぶんえいきょうをあたえているようです。だから少しでも、生きている物たちにえいきょうをあたえないようにします（東山小学校4年生）

●いきものを大切にする。自然を大切にする。いのちとくらしをささえる生物多様性を守るためには、私達1人ひとりのとり組がひつよう（東山小学校4年生）

●ムダな電気を消して、しょうエネして生き物たちが、すめるように心がけます。緑や自然を大切にしたいです（東山小学校4年生）

●自然が少なくなっているので、小さな事から自然をふやして行って、雑草とかも取りすぎず、マンションばかりの都会に自然をふやしていきたい（八雲小学校6年生）

※この他たくさんのメッセージをいただきました。

意識調査による現況把握

目黒区立小学校理科担当教員アンケート調査(目黒区実施)

目黒区立公園イベント参加者アンケート(目黒区実施)

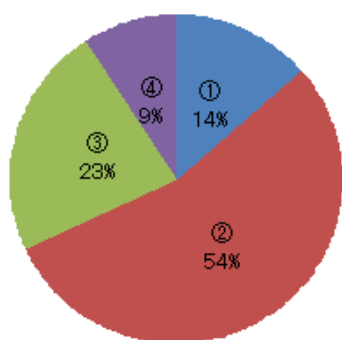
目黒区立公園講座受講者アンケート(目黒区実施)

目黒区立公園ボランティア活動者アンケート(目黒区実施)

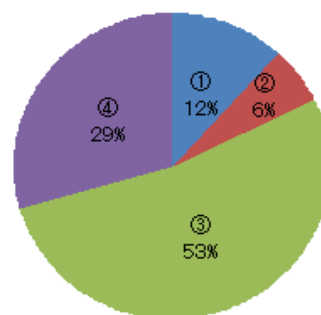
設問 「生物多様性」について関心がありますか(知っていますか)

- ① 聞いたことがあり、大いに関心がある(よく知っている)
- ② 聞いたことがあり、少し関心がある(少し知っている)
- ③ 聞いたことはあるが、あまり関心がない(よくわからない)
- ④ 聞いたことがなく、関心もない(わからない)

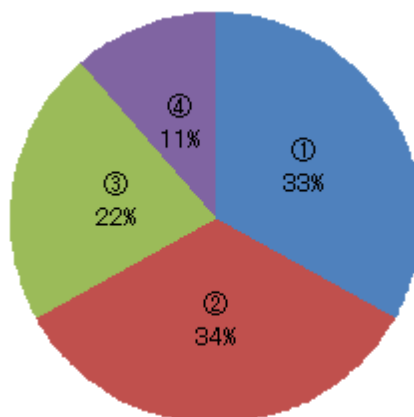
	小学校教員		イベント参加者		講座受講者		ボランティア活動者		全体	
①	3	14%	2	12%	0	0%	27	56%	32	33%
②	12	54%	1	6%	3	30%	17	36%	33	34%
③	5	23%	9	53%	3	30%	4	8%	21	22%
④	2	9%	5	29%	4	40%	0	0%	11	11%
回答数	22		17		10		48		97	



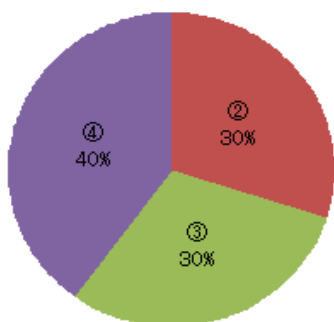
小学校教



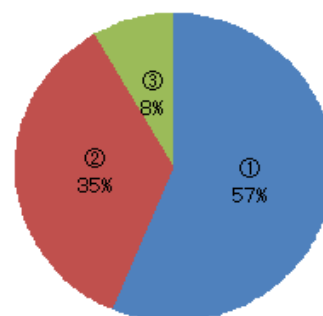
イベント参加者



全



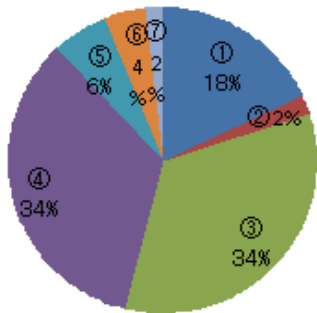
講座受講者



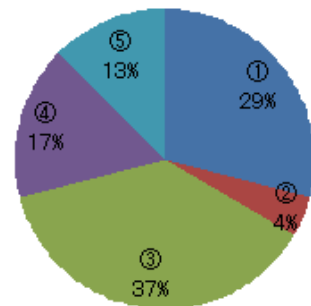
ボランティア活動者

設問 どのようにして自然とふれあっていますか（複数回答可）

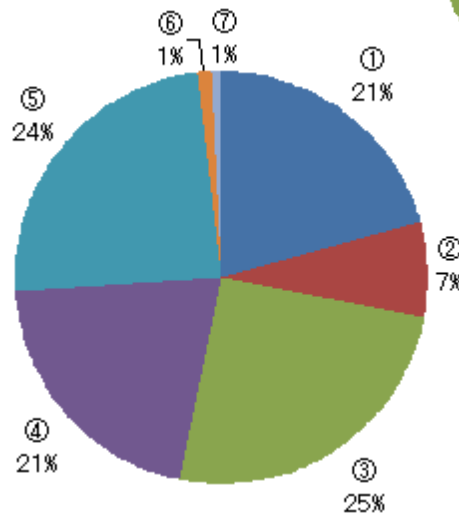
	小学校 教員	イベント 参加者	講座 受講者	ボランティア 活動者	全体
① 自宅の庭やベランダなどで、自然観察や園芸などを楽しむ	9	12	7	22	50
② 区民農園や公園の花壇などで土にふれる	1	5	1	11	18
③ 公園などを散歩する	17	11	9	24	61
④ 郊外（海・山・川など）に出かける	17	11	4	18	50
⑤ 公園などでの自然観察や保全活動などに参加する（例：自然クラブ、公園活動団体の行事、学校ビオトープ活動など）	3	6	3	46	58
⑥ 特に何もしていない	2	1	0	0	3
⑦ その他 ・学校内の畑、ビオトープ、樹木などの植物の観察、またはそこで見られる生き物の観察 ・アウトドアレジャー	1	0	0	1	2



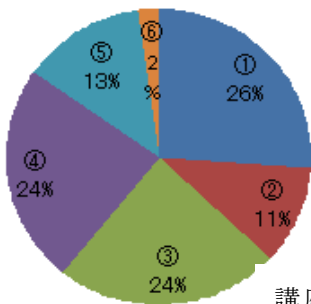
小学校教



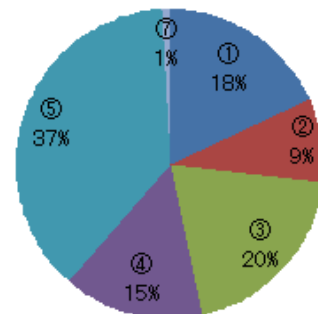
イベント参加者



全体



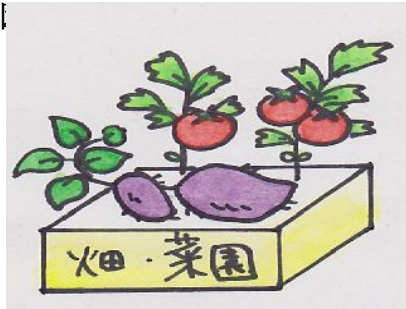
講座受講者



ボランティア活動

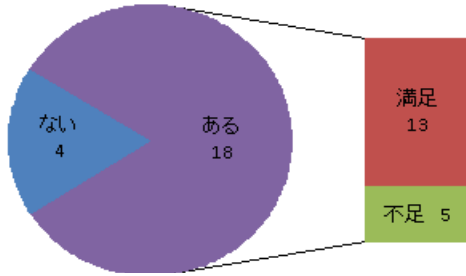
設問 児童が自然とふれあう施設として、学校には何がありますか。
 (小学校対象アンケート) (複数回答可) (例示)

畑・菜



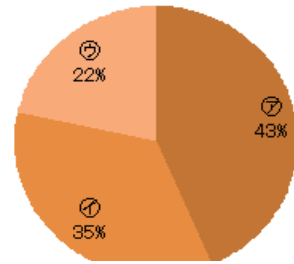
施設の有無	ある	18
	ない	4

施設の規模	満足	13
	不足	5
環境教育授業等での利用	ア 全学年	10
	イ 担当学年	8
	ウ クラブ・委員会	5
	エ ない	0
授業での活用	満足	14
	不足	3



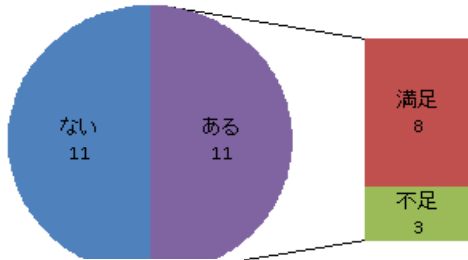
【施設の有無】

【施設の規模】



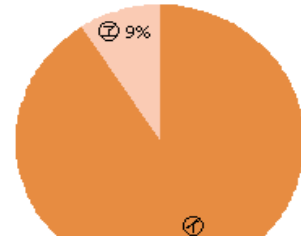
【環境教育授業】

田んぼ



【施設の有】

【施設の規】



【環境教育授業での利用】

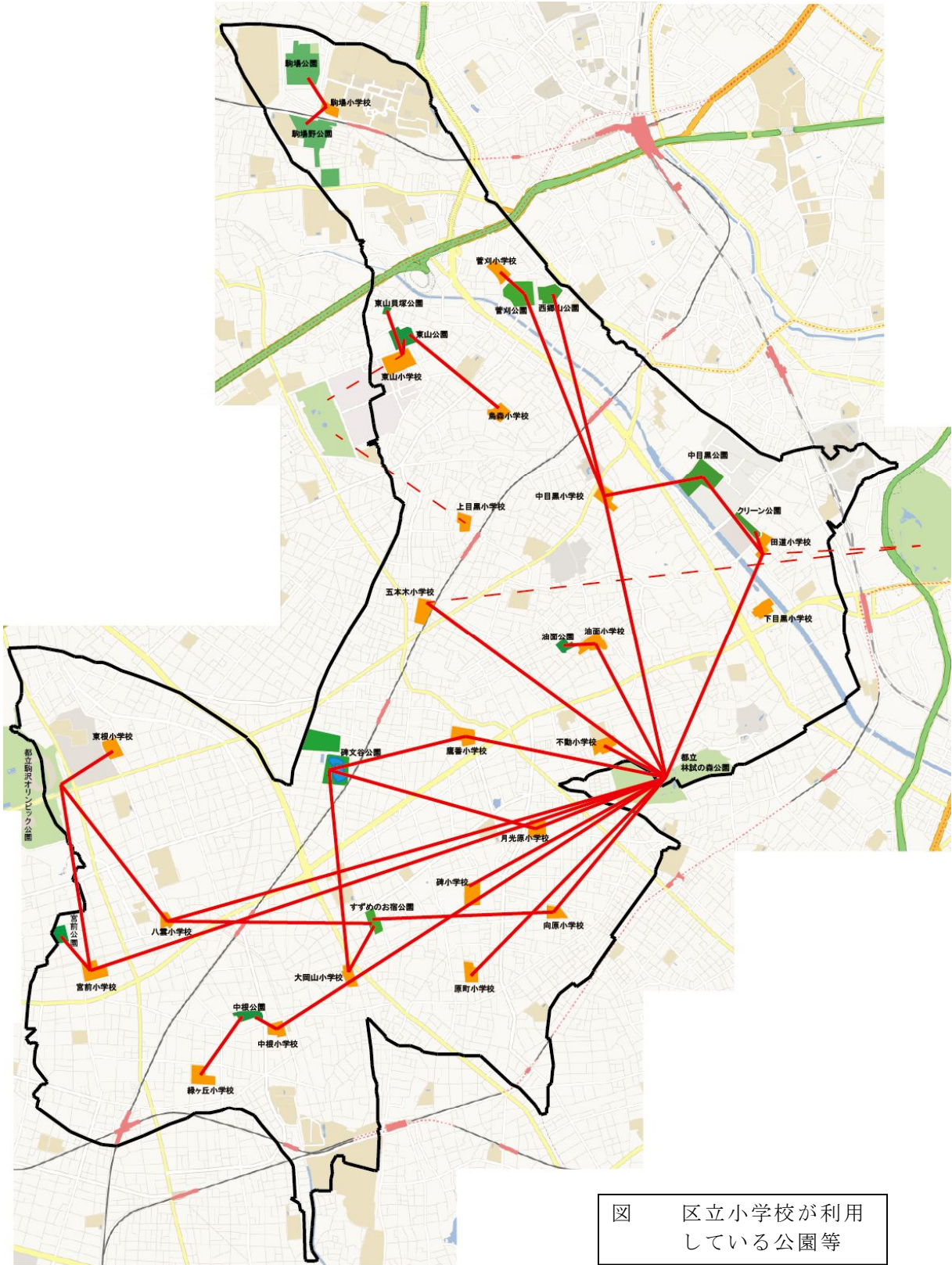


施設の有無	ある	11
	ない	11

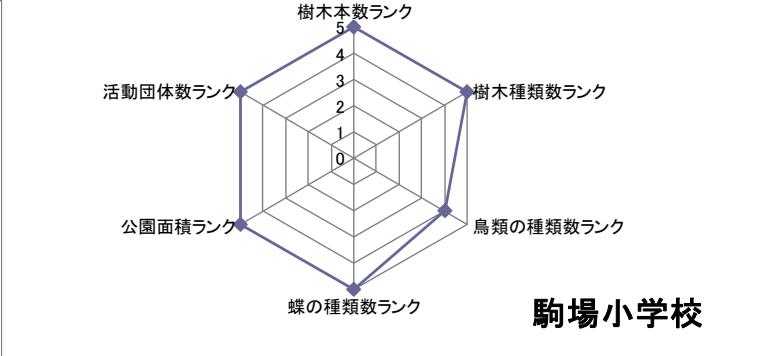
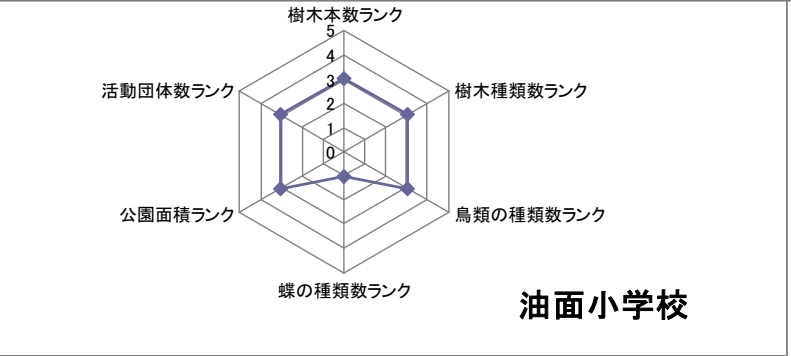
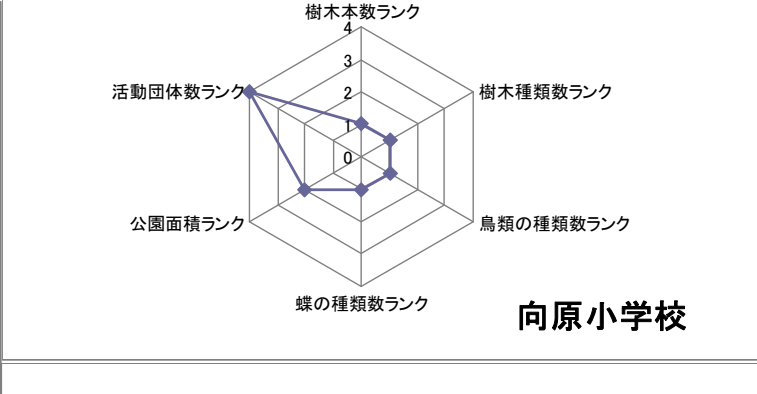
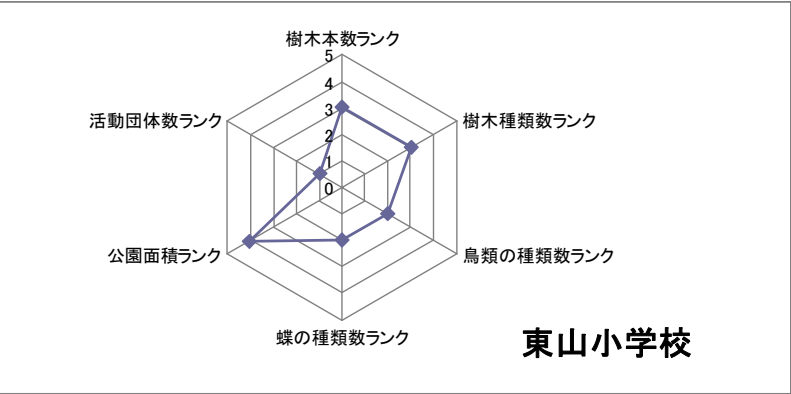
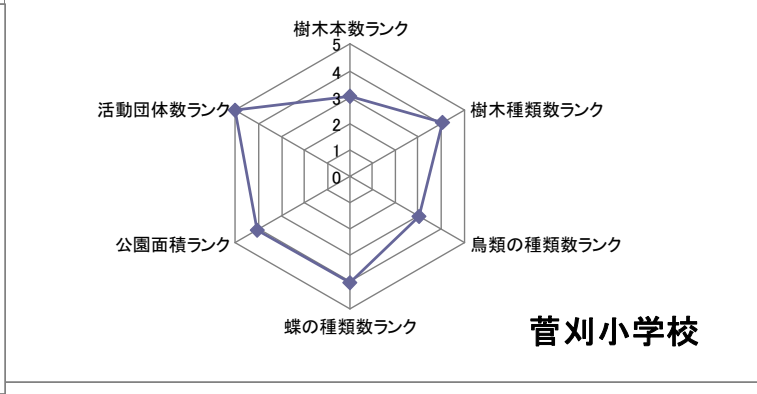
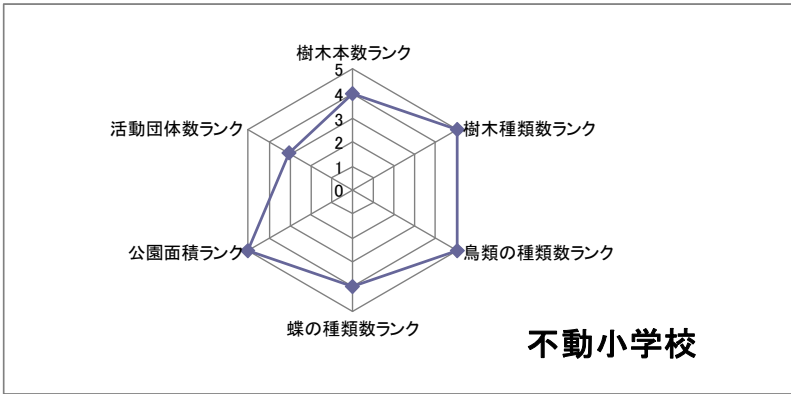
施設の規模	満足	8
	不足	3
環境教育授業等での利用	ア 全学年	0
	イ 担当学年	10
	ウ クラブ・委員会	0
	エ ない	1
授業での活用	満足	8
	不足	2

区立小学校の公園利用（自然とふれあう授業）

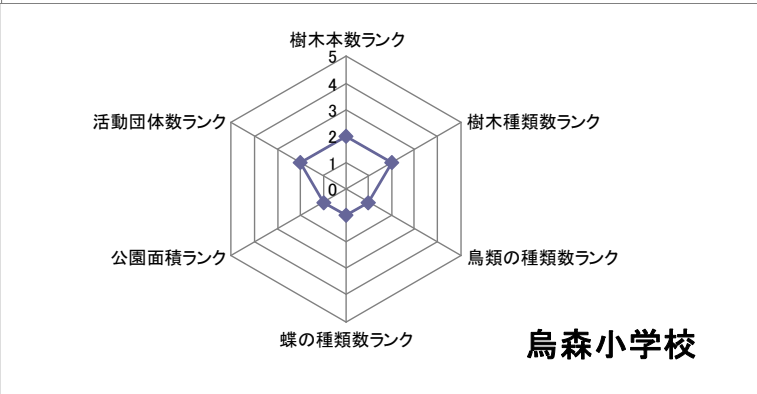
【設問】 学校の活動(学校行事や総合学習、理科・社会の授業など)の中で、校外の公園などの緑地(公園・緑道・神社や寺など、公開されている緑の多い場所)を利用することはありますか（利用する場合その名称を記入）



小学校通学域の生物多様性指標 (例示)



	全学校指標順位	設定学校数	ランク
各指標の学校別順位によるランク付	1～3位	3校	1
	4～8位	5校	2
	9～14位	6校	3
	15～19位	5校	4
	20～22位	3校	5
		22校	



樹木本数：学校通学域ごとの樹木の本数(直径20cm以上) 2003年現況目黒区緑の実態調査データ
 樹木種類数：学校通学域ごとの樹木の種類数 2003年現況目黒区緑の実態調査データ
 蝶の観察種数：2008～2012の学校通学域ごとのチョウの観察種類数
 鳥類の観察種数：2008～2012の学校通学域ごとの鳥類の観察種類数(アヒル、ドバトを除く)
 公園：広場等を含み、緑道は含まない。公園等の面積は2012年4月1日現在
 活動団体：グリーンクラブ、公園登録団体、駒場野自然クラブとした。2012年4月1日現在

生物多様性に配慮した商品のエコラベル等について

ア 国連生物多様性の 10 年日本委員会事務局の MY 行動宣言

配布資料参照 国連生物多様性の 10 年日本委員会事務局作成リーフレット

『I K I ・ T O M O vol.3』

『MY 行動宣言』

MY 行動宣言 5 つのアクション

Act5 えらぼう：「エコマークなどが付いた環境に優しい商品を選んで買います」

→生物多様性に配慮して生産・販売される商品やサービスをきちんと選ぶことは、自然と共生する社会を実現する原動力になります。

イ (財) 日本環境協会 「エコマーク事業」

環境保全に役立つと認められる商品（製品およびサービス）に「エコマーク」を付けることで、商品の環境的側面に関する情報を広く社会に提供し、持続可能な社会の形成に向けて事業者ならびに消費者の行動を誘導していくことを目的とする。事業者と消費者とをつなぐコミュニケーション手段で、(財) 日本環境協会が実施する。エコマークは日本の環境ラベルで最も認知度が高い。選定要件として、生物多様性の視点もある。



ウ その他の主に生物多様性に配慮したエコラベル商品の普及促進制度《例示》

- 「生きもののマーク」：農林水産業の営みを通じて生物多様性を守り育む取り組みと、その産物等を活用した発信や環境教育などのコミュニケーション（必ずしもラベルを産物に貼ることを条件としない）を表す言葉。基準や認証制度はない。意識して生きものを保全。農林水産省所管事業。

「生きもののマーク米」：生きもののマーク制度の一つ。栽培面積ベースで、全作付面積の 0.07% が指定されている。主にブランド米で、合わせて保全対象種を指定している。「コウノトリ米」など。

- MSC (海洋管理協議会) 制度：漁業認証と水産物エコラベルを通じ、持続可能な漁業を推奨している。MSC エコラベルには認証サプライヤーと、MSC 認証エコラベルの 2 種がある。水産資源や海洋環境を守って獲った水産物に与えられる証です。消費者がこのラベルの付いた水産物を選ぶことによって、厳しい取り組みをしている漁業者を支えることにつながる。世界自然保護基金 WWF ジャパンが所管。



- マリン・エコラベル・ジャパン (MEL ジャパン)：水産資源と海にやさしい漁業を応援する制度で、資源と生態系の保護に積極的に取り組んでいる漁業を認証し、その製品に水産エコラベルをつける。(社) 大日本水産会が所管。



マリン・エコ・ジャパンのロゴマーク

愛知目標		目黒区との 関連性	目黒区の関連項目	現状・課題
戦略 目標	個別目標			
A 根本的 要因 への 取り 組み	1	みんなが、生物多様性は大切なんだと知ろう。その気持ちをもって、行動しよう。	◎ ・エコ園芸講習会 ・花みどり人講習会 ・いきもの発見隊 ・環境ナビゲーター(環境推進員)養成講座 ・食育 ・HP「いのちのつながり」 ・いきもの図鑑 みんないるかな？ ・いきもの住民台帳、いきもの気象台観察ノート ・学校教育等 ・みどりのまちなみ助成 ・地域の活動等による自然調査 ・公園水辺環境の改善・公園雑木林管理(駒場野公園) ・公園登録団体活動	目標の達成度合いを評価するための指標がない。
	2	国や地方は、生物多様性に気を配った計画を立てよう。	○ ・環境基本計画、みどりの基本計画(策定済) ・生物多様性地域戦略(策定中) ・緑化計画の認定 ・保存樹木等指定	なし
	3	生物多様性に悪い制度は、やめよう。やめさせよう。	○ ・生物多様性に有害な奨励措置(補助金を含む)は見当たらない。	なし
	4	環境に無理をさせず続けられる生産と消費を行おう。	○ ・生物多様性地域戦略(策定中) ・生物生息環境の改善のための土壌改良育成	・現時点では「持続可能な生産及び消費のための計画」がない。
B 直接的 要因 への 取り 組み	5	森など、生き物が暮らす場所が失われるスピードを半分まで抑えよう。ゼロを目指そう。	△ ・みどりの基本計画(策定済) ・緑化計画の認定 ・保存樹木等指定 ・めぐろエコの森(友好都市である宮城県角田市にある四方山の一角) ・学校の壁面緑化 ・屋上緑化(天空庭園、十五庭園等)	・緑被面積17.1%(23区中9番目) ・直径20cm以上の樹木は平成15年時点で24,024本であり、平成4年から平成15年の11年間に2,279本減少。 ・大きな屋敷が取り壊され、庭の緑が減少する事例あり。
	6	魚や貝など水産資源は、これからも無理なく続けられるように漁獲しよう。	△ 【参考】 目黒川の水質改善	【参考】 環境基準を達成していない項目もある。 (BOD 3地点中1地点)
	7	農業・養殖業・林業が行われる地域を、長く無理なく活動できるよう管理しよう。	△ ・区民農園 ・ミツバチのプロジェクト ・地域によるワイン作り ・冬の伝統野菜を畑で収穫して、漬物作り	農地面積は1914年以降急激に減少し、平成15年時点で3.66ha(約20力所)である。
	8	化学汚染は、有害でない範囲まで抑えよう。	○ 目黒川の水質改善	環境基準を達成していない項目もある。 (BOD 3地点中1地点)
	9	環境に害をあたえる外来種が増えるのを防ごう。入ってこないようにしましょう。	○ ・公園等での侵略的外来種の排除と生態系バランスの維持に向けた取組み ・いきもの発見隊 ・環境ナビゲーター(環境推進員)養成講座 ・食育 ・HP「いのちのつながり」 ・いきもの図鑑 みんないるかな？ ・いきもの住民台帳 ・いきもの気象台観察ノート ・公園登録団体活動の開始	・区内で確認された2,956種の生物のうち、776種は外来、植栽、飼育等由来の生物である。
	10	(2015年まで)サンゴなど、特に弱い生態系を守ろう。	○ ・新エネルギー及び省エネルギー機器設置費助成 ・地球温暖化防止目黒行動宣言 ・地球温暖化対策推進実行計画 ・目黒区地球温暖化対策地域推進計画	・平成16年度の温室効果ガス排出量は、平成2年比で17.2%増加 ・H17年度の温室効果ガス排出量は、1990年比で11.6%増加。国の8.7%、23区の9.8%を上回る増加率である。

愛知目標		目黒区との 関連性	目黒区の間連項目	現状・課題	
戦略 目標	個別目標				
C 生物多 様性の 状況・ 維持	11	陸地の17%、海の10%は、なにがあっても守る場所に決めよう。	△	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化計画の認定 ・保存樹木等指定 ・めぐろエコの森(友好都市である宮城県角田市にある四方山の一角) 	<ul style="list-style-type: none"> ・直径20cm以上の樹木は平成15年時点で24,024本であり、平成4年から平成15年の11年間に2,279本減少。 ・緑被面積17.1%(23区中9番目) ・大きな屋敷が取り壊され、庭の緑が減少する事例あり。
	12	絶滅危惧種を絶滅から防ぎ、ふつうの種に戻していこう。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・保存樹木等指定 ・東京メダカの保護と生息環境の回復 ・めぐろエコの森(友好都市である宮城県角田市にある四方山の一角) ・学校の壁面緑化 ・屋上緑化(十五庭園) 	区内で確認された2,956種の生物のうち、169種が国又は都により絶滅の恐れがある種に指定されており、776種は外来、植栽、飼育等由来の生物である。
	13	一つの種のなかでも、多様さを大事にしよう。	△	<ul style="list-style-type: none"> ・中目黒公園内の「目黒あたりの昔の畑」で冬び電と野菜を栽培 	農地面積は1914年以降急激に減少し、平成15年時点で3.66ha(約20力所)である。
D 自然の 恵みの 強化	14	生態系を守り、自然の恵みが子どもや貧しい人々にも届くようにしよう。	△	区指定文化財	建築物、仏像、伝統文化(目黒ばやし)などが指定されている。
	15	傷ついた生態系を、15%以上回復させよう。それによって気候変動や、砂漠化の問題に貢献しよう。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化計画の認定 ・保存樹木等指定 ・めぐろエコの森 ・学校の壁面緑化 ・屋上緑化(天空庭園、十五庭園) ・生物生息環境の改善のための土壌改良育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑被面積17.1%(23区中9番目) ・直径20cm以上の樹木は平成15年時点で24,024本であり、平成4年から平成15年の11年間に2,279本減少。 ・大きな屋敷が取り壊され、庭の緑が減少する事例あり。
	16	(2015年まで)生物多様性から得られる利益は、国や地域を越えて公正に分配しよう。	×	該当なし	なし
E 実施の 強化	17	(2015年まで)みんなが参加しながら作戦を立て、みんなを実現しよう。	×	該当なし	なし
	18	生き物や自然にまつわる伝統的な知識を大切にしよう。	△	<ul style="list-style-type: none"> ・区指定文化財 ・冬の伝統野菜を畑で収穫して、漬物作り ・いきもの住民台帳、いきもの气象台観察ノートの公開 ・駒場野公園炭焼きイベント 	建築物、仏像、伝統文化(目黒ばやし)などが指定されている。
	19	生物多様性に役立つ知識や技術を豊かにしていこう。	△	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ビオトープ活動 ・来園者の健康やコミュニティ形成の環境づくり ・幼児・児童対象の自然体験活動・エコ園芸講習会 ・花みどり人講習会 ・いきもの発見隊 ・環境ナビゲーター(環境推進員)養成講座 ・食育 ・HP「いのちのつながり」 ・いきもの図鑑 みんないるかな? ・いきもの住民台帳、いきもの气象台観察ノート ・学校教育等 ・こども動物広場 ・自己調査型指標種調べ ・公園登録団体活動 	目標の達成度合いを評価するための指標がない。
	20	活動を支えるために大切な資金を、協力を集め増やしていこう。	△	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全施策の推進 ・みどりの保護の助成(壁面緑化、屋上緑化、接道部緑化) ・保存樹木等助成、高枝切りバサミ貸出を実施・地域の参加による公園の保全活動 ・いきもの発見隊 ・いきもの図鑑 みんないるかな? ・いきもの住民台帳 ・いきもの气象台観察ノート 	<ul style="list-style-type: none"> ・助成、観察会、調査の継続 ・観察記録の充実

※ 目黒区との関連性: ◎ ⇔ ×
関連性 大 ⇔ 小